

## 生活誌・資料・年表編の発刊にあたって

熊野町史編さんは、永年町民の待望するところでありましたが、一昨年発刊された通史編に続き、このたび続編として、ここに生活誌・資料・年表編の完成を見ましたことは、まことに喜びに堪えません。

町史編さん事業は、町制施行六十周年記念事業として企画されたものであります。幸いに広島大学関係の先生方を中心メンバーとする、各分野の権威ある方々によって編集委員会を構成していただくことができ、大へん行き届いた調査編集がされ、記念事業に華を添える充実した町史となりました。昭和五十五年度（一九八〇）より七か年の歳月と多大の経費を費して一昨年、通史が完成したのであります。この間、通史編さんに当たり、収集された多くの貴重な資料を、このまま眠らせることは、あまりに惜まれることであり、通史発刊に引きつづき、本編の編さんに取り組むこととなりました。こうしてさらに二か年をかけて本編発刊に至ったのであります。

通史編並びに本編の編さんに当たっては、人権尊重の理念貫徹にとめました。町史の性格上、特に資料編においては、学問的立場で原資料が収録されています。読者におかれましては、編さんの趣旨をご理解いただき、本町史をご活用賜りたいと存じます。

着手より今日まで九か年の長期にわたりましたが、その間より整備された町史にとご尽力いただいた編集委員の先生方、並びに資料提供等に格別のご協力をいただいた各位、文化財保護委員会、印刷製本に携った「株式会社ぎょうせい」等々多くの方々の熱意がここに結実したものであります。ここに改めて深く感謝の意を表するものであります。なお町史刊行委員会におきましては、初代委員長登里良太郎氏、第二代委員長荒谷真治郎氏が業半ばにして他界されました。町史刊行にかけられた両氏の熱意に対し、あわせて謝意を表します。

世情変遷の激しい今日、郷土熊野の自然や、先人の歩みの実像を知ることとは、ふるさとへの熱い想いを育くむでありましょう。またこの町史が、伝統的工芸品として日本一を誇る熊野筆の町、わたしたちの町を、広く紹介するよすがともなれば幸甚に存じます。

平成元年（一九八九）三月

安芸郡熊野町長 南 崎 高 市

町史刊行委員長 福 岡 孝 義